

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度技術情報第11号（サトイモの疫病）について（送付）



現在のところ、サトイモ疫病の発生は確認されていませんが、向こう1ヶ月の気象予報から、今後の発生が懸念されます。防除対策等を取りまとめましたので送付します。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（www.jpnn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

令和3年度 技術情報第11号

1 対象病害虫 疫病

2 対象作物 サトイモ

3 発生状況及び情報の根拠

- （1）6月16～21日の巡回調査において、サトイモ疫病の発生は確認されなかった（図1）。
- （2）九州南部の向こう1か月の気象予報（7月1日鹿児島地方気象台発表）では、気温は高く、降水量は平年並みと予報され、本病の発生に好適な条件となる。

4 防除上注意すべき事項

- （1）ほ場外周部の葉や中～下位葉が発生しやすいので、ほ場をこまめに観察し、早期発見に努める。特に前年度発生したほ場では注意して観察する（図2, 3, 4）。
- （2）降雨が続くと発生しやすいので、定期的な予防散布に努める（図5）。
なお、予防薬剤のジーファイン水和剤は、気温が高い時の散布時に薬害の発生が報告されている。雨の合間での散布でも、散布後の急激な日照で薬害が発生する恐れがあるので、注意する。
- （3）発病を認めたら、直ちにダイナモ顆粒水和剤、アミスター20フロアブルの順に7日間隔で複数回交互散布し（図5）、発生拡大を抑える。なお、発病葉は、発生源となるので、早めに摘み取ってほ場害に持ち出し、適正に処分する。
- （4）薬剤散布後に葉が長時間濡れていると、薬害がでる恐れがあるので、薬剤は速やかに乾く時間帯を選んで散布する。

5 参考データ

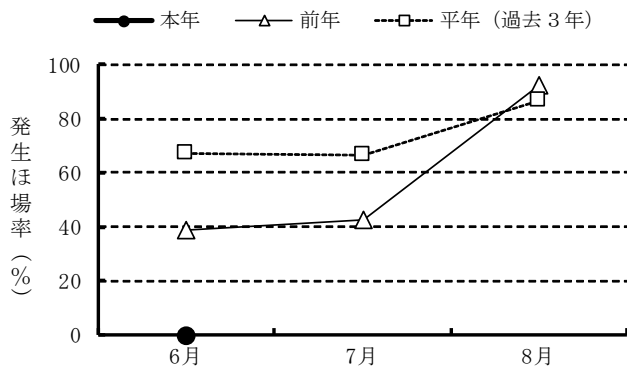


図1 サトイモ疫病の発病ほ場率の推移



図2 サトイモ疫病の発生ほ場



図3 雨天時の症状



図4 晴天時の症状

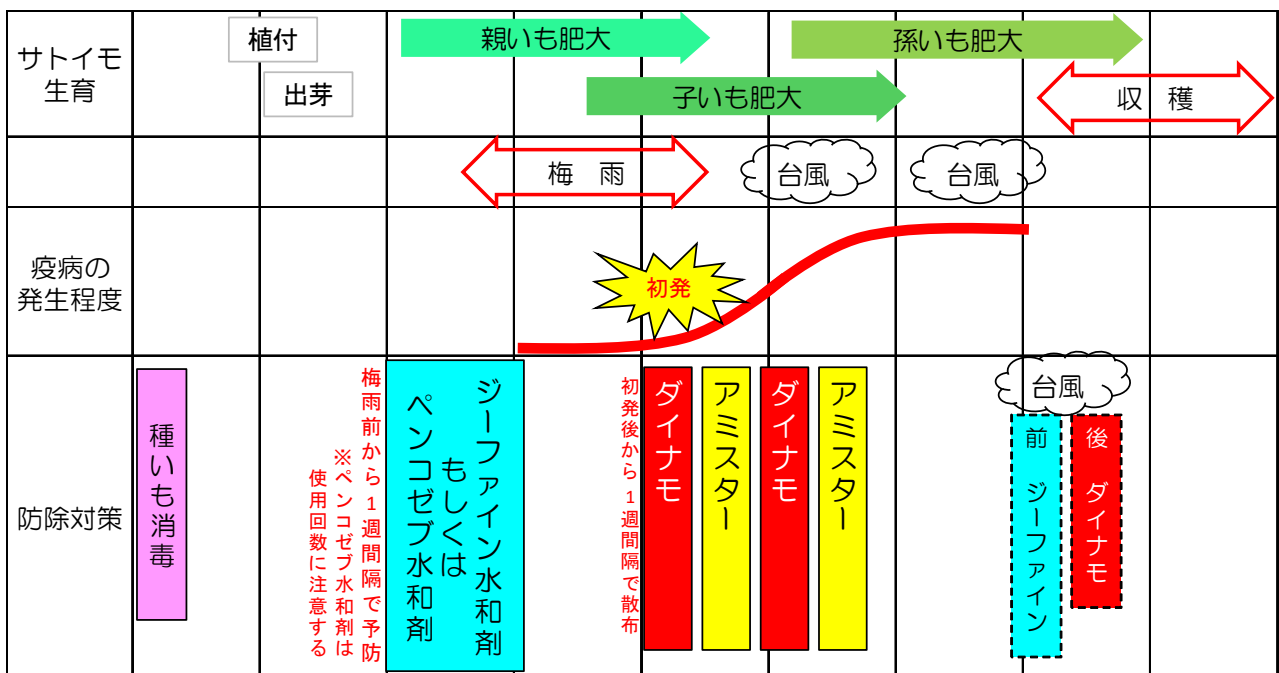


図5 サトイモ疫病の防除体系 (1例)